

学校教員の持つ月経知識および月経イメージと生徒の 月経への関わりについて

安藤ゼミ 19460297 野内舞

目次

■第1章 序論

第1節 問題

第2節 本研究の目的

■第2章 予備調査

第1節 目的

第2節 方法

第3節 結果

第4節 考察

第5節 本調査に向けて

■第3章 本調査

第1節 目的

第2節 方法

第3節 結果

第4節 考察

■第4章 総括

引用文献

参考文献

付録1 本調査自由記述

付録2 予備調査質問紙

付録3 本調査質問紙

付録4 本調査依頼文書

問題関心

◆学業や運動に支障のある月経痛がある中高女子生徒の割合は約7割。（子宮内膜症啓発会2016）

- ・ 思春期の女子生徒は一日の大半を学校で過ごしている。
- ・ 学校教員は、「月経」について正しく理解していて、月経に苦しむ生徒に対して適切な指導や支援ができているのだろうか。



「教員」と「生徒の月経」について焦点を当てた研究はあまりなされていない

→教員の持つ月経観や月経に関する知識、生徒の月経への関わりについて
着目

研究の目的

学校教員の持つ、月経に関する知識やイメージ、月経に関するコミュニケーション頻度、生徒の月経への対応や対処の実態について明らかにすること

- 教員の持つ月経に関する知識の実態（性別や担当教科・年齢などによる差はみられるのか）
- 教員の持つ月経イメージについて（性別による違いがみられるのか）
- 教員の月経に関するコミュニケーション頻度（他の教員や生徒たちとどれくらい月経について話す機会があるのか）
- 教員による生徒の月経への対処について

調査概要

◆調査期間

2022年7月27日～2022年9月20日

◆対象者

全国の中学校・高等学校教員
117名（男性59名、女性57名、
その他1名）

◆調査方法

質問紙調査（Googleフォーム）

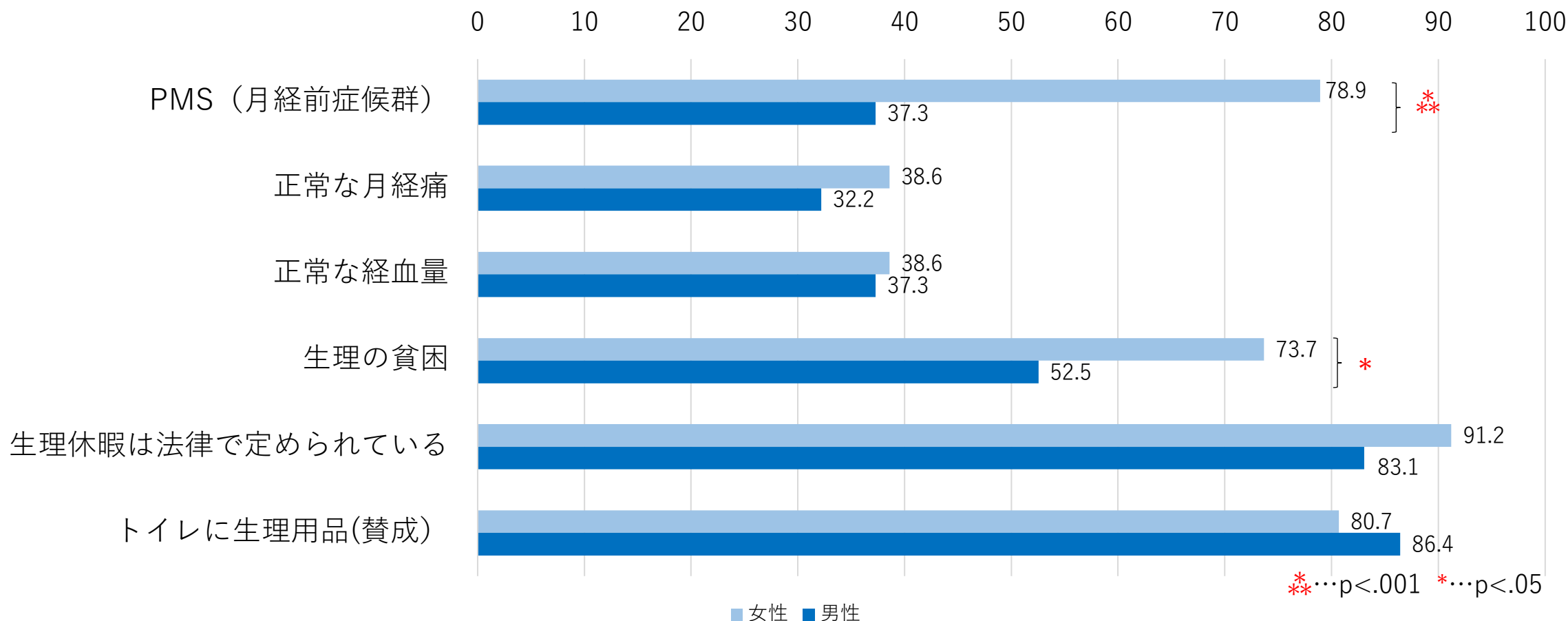
◆質問紙構成

- 属性に関する項目
- 月経に関する知識について問う項目
- 月経に対するイメージについて問う項目
- 月経に関するコミュニケーション頻度について問う項目
- 生徒の月経の対処について4つの場面を想定して問う項目

→（例）テスト中や式典の最中に生徒がナプキンの交換のための離席を申し出たらどのように対応しますか。
「申し出を受け入れる、申し出を断る、代替案を提案する」から選択。

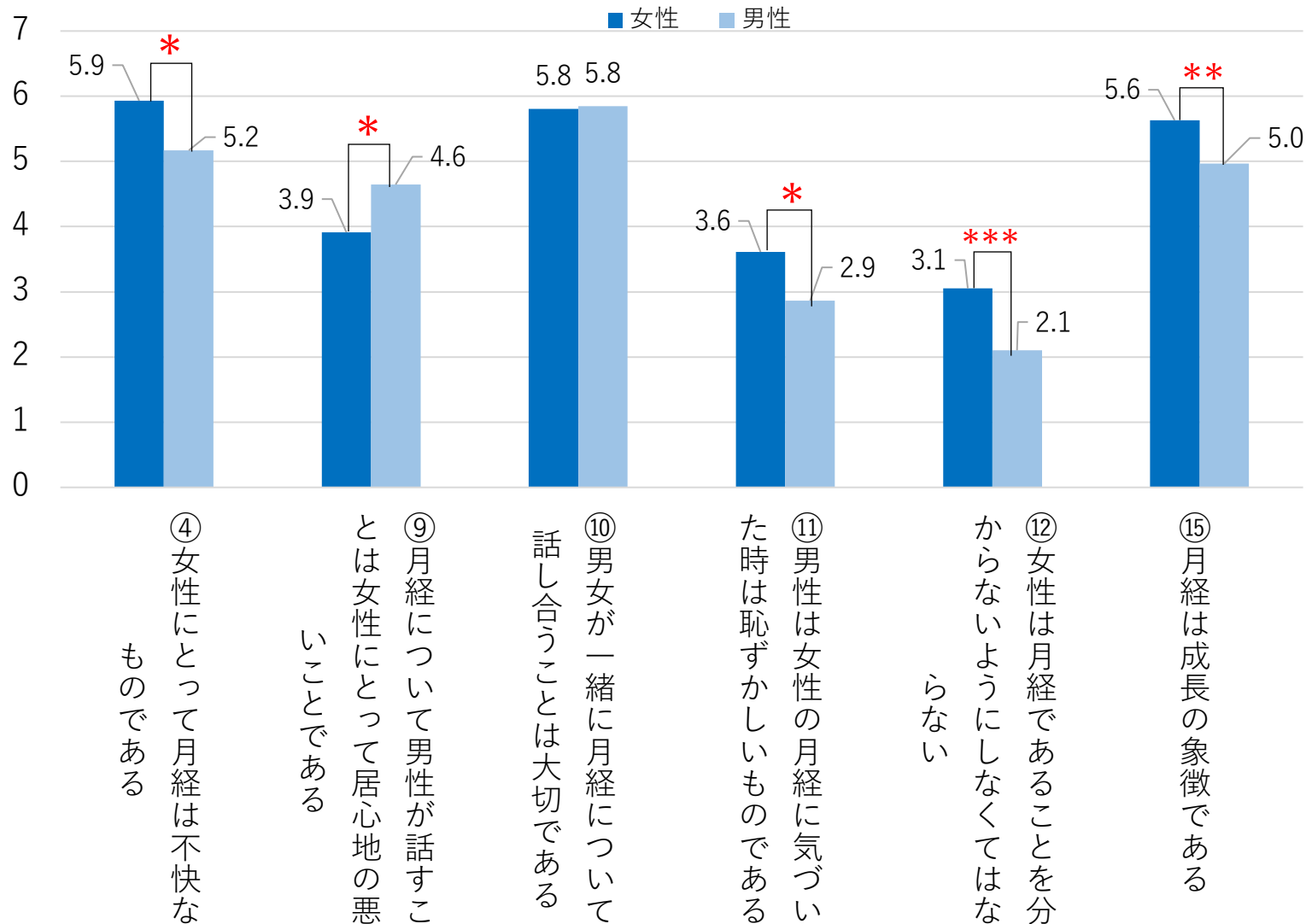
結果①

以下のグラフは、月経に関する知識について尋ねた質問で正当を選択した人の男女別の割合である



- ◆ PMS、生理の貧困について「知っている」と回答した人は、女性の方が有意に多かった。
- ◆ 「正常な月経痛」や「正常な経血量」において正解を選択した人が少ない傾向にあった。

結果② 月経イメージ尺度のt検定の結果



◆ *のある項目で男女の平均値に有意差が認められた。

◆ ⑩では、男性も女性も同じくらい「月経について一緒に話し合うことは大切である」と思っていることが分かった。

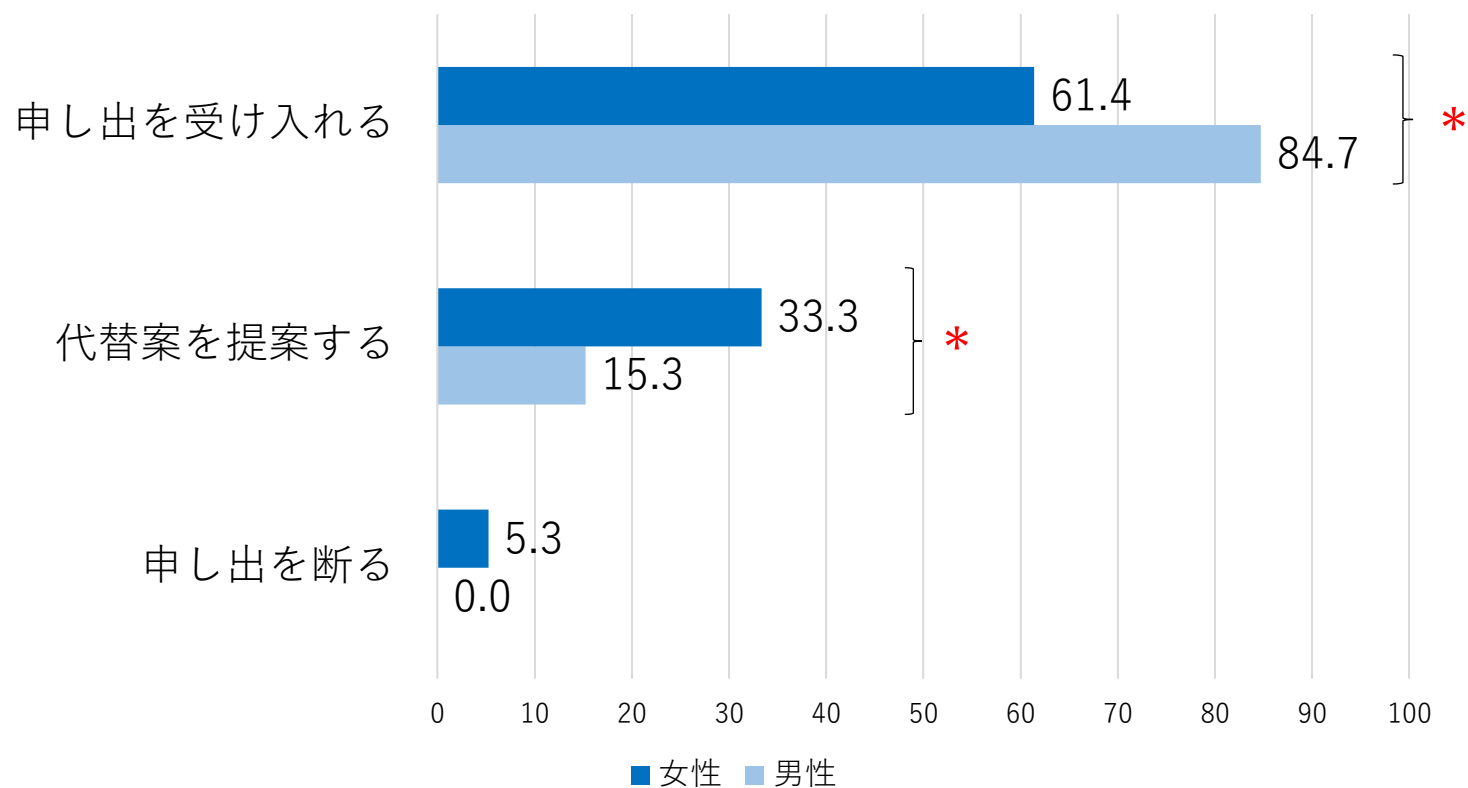
→一方、⑨は男性の平均値の方が有意に高く、⑪は女性の平均値の方が有意に高かった。

***... $p < .001$, **... $p < .01$, *... $p < .05$

結果③

生徒の月経への対処の結果

「生徒が月経痛を理由に帰宅したいと申し出た。（この生徒は2週間前にも月経痛を理由に早退している）」の場面において、男女で有意差が認められた。



◆ 「申し出を受け入れる」を選択した人は男性の方が有意に多かった。

◆ 「代替案を提案する」を選択した人は女性の方が有意に多かった。

*... $p < .05$

考察①

◆PMS、生理の貧困について、女性の方が認知しているという結果が得られた。

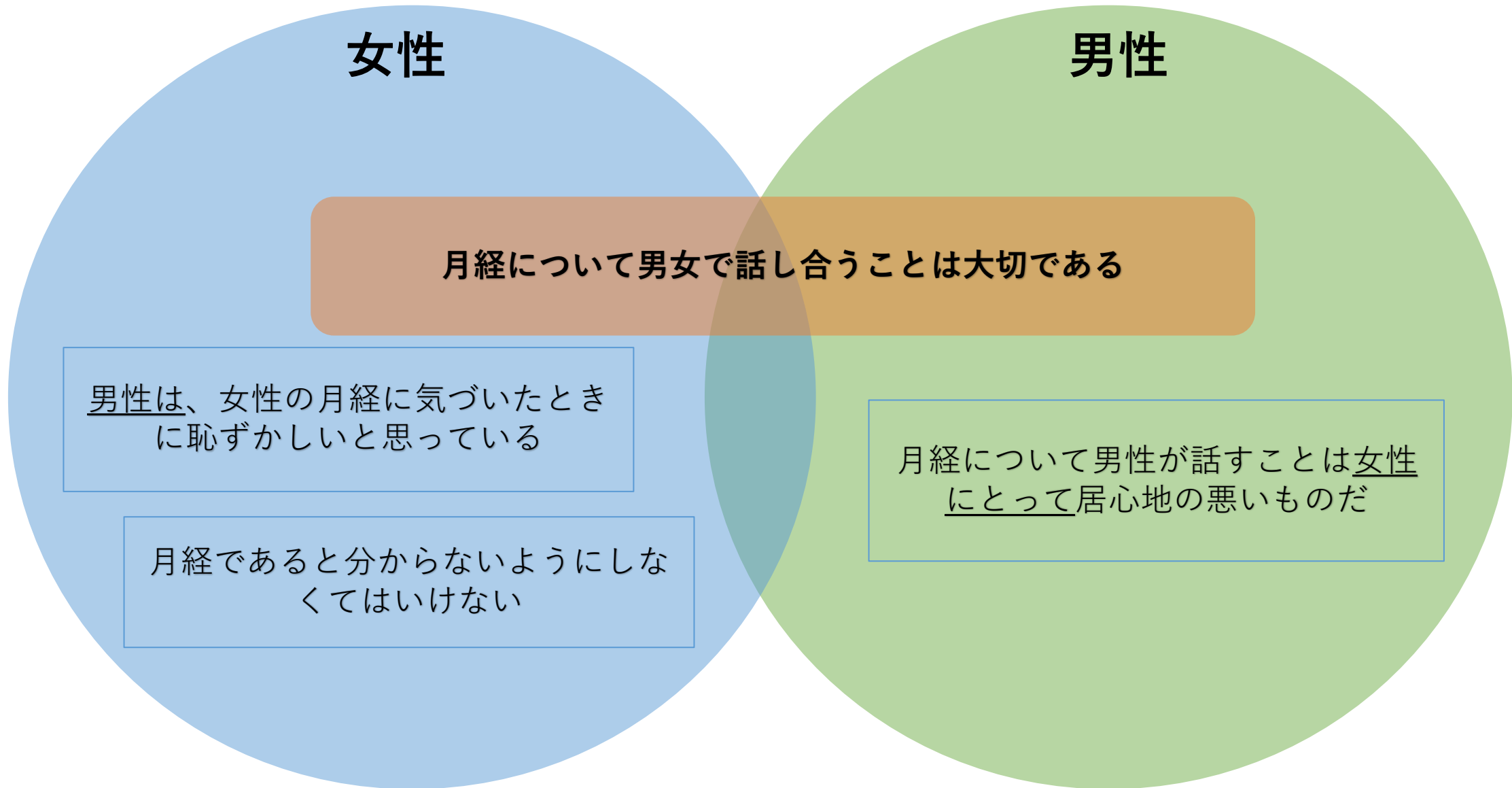
→女性にとって月経は身近なものであり、月経に関するニュースや問題について、より敏感になっているため「PMS」や「生理の貧困」など比較的最近耳にするようになった話題について、より認知しているのではないか。

◆男女ともに正常な月経の症状について正しく理解している人が少ない傾向にあった。

→「異常な月経の症状」を理解している人が少ないのではないか。

自分の月経の症状が異常であると自覚している人が少ないのでは??

考察② 月経イメージについて



→実際には、月経について一緒に話し合うことができなくなっているのでは？

考察③

◆月経痛による早退の申し出の場面で、「申し出を受け入れる」と回答した人は男性の方が有意に多く、「代替案を提案する」と回答した人は女性の方が有意に多かった。

→男性にとって月経は経験したことのない「よく分からないもの」であり、申し出を断りにくいからではないだろうか。

反対に、女性は月経を経験したことがあるからこそ、月経痛を和らげる方法を提案する等の代替案を提案する人が多いのではないだろうか。

ご清聴ありがとうございました。